

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 4 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870700261		
法人名	医療法人 浦岡医院		
事業所名	グループホーム やすらぎの家		
所在地	大洲市西大洲甲525番地 (電話) 0893-24-5855		
管理者	井上博子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 3 月 12 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 7 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 1 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 5 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 12.2 人	

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	140 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 160 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 1 月 1 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名
要介護 3	8 名	要介護 4	3 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 86.4 歳	最低 74 歳	最高 94 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲は田畑に囲まれ、窓からの見晴らしがよく、のどかである。木造平屋建てのホームは、日中玄関の扉が大きく開かれ、開放的である。2ユニットあるが、職員は勤務日によってユニットを移動している。これは、18人の利用者全員を全ての職員でケアしていきたいとの思いからで、利用者一人ひとりを十分把握し、それぞれに合ったケアをしている。運営者である医師が、地域医療に携わる中で、認知症について理解を深め、地域への貢献として早くから立ち上げ、ターミナルケアにも熱心に取り組み、利用者の健康面での大きな支えとなっている。ターミナル

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

評価を改善に活かせるよう、改善計画を立てている。トイレへの矢印で場所間違いを防ぐ、消毒液を備え家族に病人が出ている場合にはマスクを着用する等で感染症予防に役立てる、事故報告書をミーティングで分析して再発防止のための具体的な解決策を取り決めてるなど、改善に取り組んでいる。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

管理者及びホーム長が、職員の意見を聞き、自己評価をまとめている。自己評価の結果、地域への広報活動を進めていくことや地域の防災訓練への参加、及びホームの避難訓練に地域の方に参加してもらうことを今後の課題に挙げている。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

ホームの状況や行事について詳しく報告し、委員から要望や意見を率直に出してもらっている。交流のある同市内のグループホーム職員の参加も得ているため、認知症の方の対応について議題に取り上げ、助言を得ている。また、運営推進会議での交流を通し、ホームの芋掘りに招待し、利用者同士の交流へと発展させている。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の来訪時には職員から話しかけるように努め、家族からの意見を出し易くしている。家族への報告、連絡、相談をきめ細かく行い信頼関係が築かれているため、意見はよく出ており、出された意見等は運営に活かしている。運営推進会議の場で意見を出す機会があり、参加していない家族には議事録を送付し、意見の表出を促している。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

自治会に加入し、地域の奉仕活動に職員が参加している。幼稚園や小学校の子どもの交流もあり、互いの行事に参加し合っている。中学生や地域のボランティアも受け入れており、公民館で活動しているグループの演奏は利用者も楽しみにしている。また、近所の畑の方がホームの畑を耕してくれたり、野菜をもらったり、日常的なおつきあいをしている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム やすらぎの家

(ユニット名) A 棟

記入者(管理者)  
氏名 下崎 加代

評価完了日 平成 20 年 1 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 入居者の目線で理念を作り、住み慣れた地域での安心して暮らしが出来るように理念を作り上げている。  (外部評価) 開設時からの「うるおいのある生活を共に」という理念を、実践に活かせるよう職員で話し合い、新たにケア理念として、「のんびりゆったりやすらげる」「一人一人の個性を大切に」という具体化した理念を作っている。また、運営規程に事業の目的として、地域住民との交流を掲げ、利用者の住みなれた地域での生活を支えていくことを謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念に基づいて、ミーティングや申し送りに話し合い、具体的なケアについて意見統一を図っている。  (外部評価) 書初めで書道の得意な利用者にケア理念を書いてもらい、掲示している。具体化された理念は職員も意識し易くなり、利用者がゆとりのある生活を送ることができるように声かけを工夫している。また、利用者との会話を大切にし、一人ひとりに合ったペースで過ごすことができるよう支援している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を実施し、理解してもらえよう取り組んでいる。家族には、入居時及び面会時に説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩や買い物などに出かけ、近所の人たちと挨拶をしたり声かけをしている。作物の差し入れがあったり畑を耕してもらっている。	※	地域の一員として地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んでいくために回覧板をまわして、グループホームのことを理解して頂き行事等の参加して頂きたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の盆踊り、敬老会に参加しています。また、地域の幼稚園、小学校との交流会をしています。  (外部評価) 自治会に加入し、地域行事には利用者も参加している。幼稚園や小学校の子どもと年間5～6回交流し、秋にはホームの畑で芋掘りをし、春には幼稚園のひな祭り会と呼ばれるなど、交流がある。また、中学生や地域のボランティアを受け入れたり、公民館活動をしている地域の方が、大正琴等の演奏で来訪したりしている。	※	ホームではさらに理解を得られるよう、近隣住民への回覧板による広報活動を推進し、公民館に5周年記念誌を置くなどを計画している。この取り組みによって地域とのつきあいがより深まり、ホームの理解者がさらに増えていくことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を通して認知症に関して、地域の相談を受け付けることができるようにしている。災害時の対応についても話し合いを持っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己、外部評価の意義は理解している。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、前回指摘項目は改善するよう取り組んでいる。  (外部評価) 管理者、職員は評価の意義を十分理解し、利用者の生活をよりよくするよう、改善計画を立てるなどして評価を活かしている。前回評価を受けて、事故報告書を分析し、再発防止策を話し合い、転倒の防止等に役立てている。また、消毒液の設置やマスクの着用を実施して感染症の予防に努めている。	※	今回は管理者とホーム長が職員の意見を聞きながら自己評価をまとめているが、今後は自己評価項目をミーティング等で取り上げ、一つ一つの項目のねらいを全職員が理解した上で、一人ひとりが自己のケアを振り返る機会となることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で入居者の状況や今取り組んでいる事等を随時報告したり、話し合いが出来ている。議事録は、職員全員が閲覧出来るようにしている。委員の方たちには郵送している。  (外部評価) ホームの現況や行事について詳しく報告し、委員から意見や要望を出してもらっている。市職員からは、地震を想定しての避難訓練の実施をしてはどうかといった具体的な意見も出ており、活発な意見交換がされている。今まではホーム側が議題を設定していたが、今後は委員からも議題を出してもらおうよう運営方法を変えていく方針である。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 大洲市の開催する会議や研修に参加している。また、地域総括支援センターとも交流を図り、質の向上に取り組んでいる。  (外部評価) 市が主催する連絡会で情報交換し、研修を受けている。地域包括支援センターにも相談に乗ってもらっている。3年前から、2か月に1回介護相談員を受け入れ、利用者との会話から、利用者の要望を伝えてもらい、レクリエーションの時間を設けたり、一人ひとりが活躍できる役割を担ってもらうなど、運営に活かしている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度の内容については、理解できている。研修に参加した上で、ミーティングで職員の理解を深め、必要な場合は活用できる状態である。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についてスタッフ全員で話し合い虐待防止に努めている。研修会にも参加し、内容をミーティングのときに伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約時、文書などで十分に説明を行い、理解、納得を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員を2ヶ月に1度派遣してもらい、入居者の相談にのっていただいている。入居者の立場に立った意見を頂き運営の参考にしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月の請求書時に、入居者の暮らしぶり、健康状態を報告している。金銭管理は、個別の出納帳を作り月末ご家族にサインを頂いている。 <hr/> (外部評価) 家族への報告、連絡、相談は重要であると捉え、頻繁に行っている。毎月の利用料請求時には、暮らしぶりについて手紙を添え、行事の時の写真も同封している。健康状態の変化や受診、検査結果については電話で連絡し、金銭出納帳は面会時に確認のサインを得ている。また、ホーム便りや運営推進会議の議事録も送付している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情、意見箱を設置し、内容について確認している。運営推進会議により不満などを表せる機会を設け、あれば改善している。 <hr/> (外部評価) 意見箱を設置し、苦情相談窓口を明確にしているが、それよりも直接口頭で意見や要望を伝えてもらうことが多い。家族との信頼関係が築かれ、意見を出し易い雰囲気であることがうかがえる。また、運営推進会議に参加していない家族からの意見を求めるため、毎回議事録を送付している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティング時、話し合う機会を設け良い提案は、反映させるようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 施設長が必要時、勤務調整を行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の移動は、スムーズに出来ている。入居者さんが不安にならないように配慮している。  (外部評価) 全職員が両ユニット横断したローテーションを組み、支援している。職員の離職を防ぐため、ストレスを溜めないよう配慮し、相談に乗ったり、茶話会風のミーティングを開くなど工夫している。担当者が離職する際は職員間の引継ぎを確実にし、利用者へのダメージに配慮し、自然な形で交代するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、それらの研修報告は、毎月のミーティングで発表してもらい研修報告書は全職員が閲覧出来るようにしている。  (外部評価) 職員は向上心があり、研修参加の意欲が高く、順番で年間3～4回外部研修を受講している。管理者は、職員のレベルに応じて研修情報を提供し、職員の育成に尽力している。研修に参加した職員は報告書を作成し、ミーティング時に他の職員に伝達講習している。また、運営者は研修参加費用の面で受講し易いよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 大洲市の連絡会、グループホーム連絡協議会などが主催する勉強会に出席し、意見交換を行っている。  (外部評価) 個人的に交流のある2ホームと運営推進会議に参加し合い、情報交換している。また、ホームの行事にも招き合い、交流を深めている。グループホーム連絡協議会主催の相互評価事業にも参加し、他ホームの取り組みを参考にする良い機会を得ている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の業務上の悩みストレスを解消するために、いつでも話を聞けるようにしている。また、親睦の場を作り気分転換を図れる機会を作っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修などに参加し、レベルアップを目指し、前向きに仕事が出来ているか等、職員が働きやすい職場作りに努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談で生活状態を把握するように努め、本人が不安に思っていることや求めている事等、話す機会を多く持ち、お互いの信頼関係の構築に努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで信頼関係を得るように心がけ求めていることに答えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人やご家族の思い、状況などの確認しアセスメント調査を行い、課題を明らかにしてケアサービスに努めている。	※	アンケートを行っている。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人やご家族に見学してもらうことから始め、施設長が自宅に出向くなどして、安心して生活できるよう工夫している。  (外部評価) 入居前に利用者の担当ケアマネジャーから相談を受け、一緒に自宅を訪問し、利用者や家族から話を聞いている。また、利用者と家族がホームを見学し、雰囲気に馴染んでもらっている。入居後も会話を大切に、徐々に馴染めるよう配慮すると共に、玄関の扉を開放し、外に出ることができるという安心感を持ってもらえるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 入居者の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどをすることに努め、暮らしの中で分かち合い共に支えあえる関係づくりが出来るよう勤めている。  (外部評価) 利用者からの「ありがとう」という感謝の言葉と笑顔に支えられている。また、介護時に職員が利用者の思いを受け止めながら、笑顔で接すると、利用者もにこやかな表情をされるといふ職員の話から、利用者一人ひとり理解した上での暖かい支えあいがうかがえる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来訪時に日々の暮らしの出来ことや気づきをご家族に話し、本人と一緒に支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族に行事などへの参加を呼びかけ、疎遠にならないようより良い関係が継続できるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人が、面会に来やすい雰囲気作りに気をつけている。また、ご家族や友人、知人の方への行事の参加のお願いをしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員が個別性や関係性を理解して、強者や弱者が出来ないよう対応している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所された後、必要な場合は手紙、電話等で交流を持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったりそれとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。  (外部評価) 利用者の思いが込められた言動が見られた時には個別の記録に書きとめ、ミーティング等で報告し、全職員が共有できるようにしている。言葉が少なくなった利用者の場合も行動により察知し、1対1になれるよう居室に移動し、落ち着いた雰囲気の中で傾聴することで把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を一部取り入れ、本人、ご家族などより様々な角度からの把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 申し送り、ミーティング時に、職員間で個々の情報を集約し共有する事で総合的な把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人がより良く暮すために、本人の要望、ご家族の要望を来訪時や電話で聞き、スタッフの要望を聞き毎月1回のカンファレンスを行って、きめ細かなケアプランを作成している。  (外部評価) センター方式をホームの実情に合う形で取り入れたアセスメントシートを基に、利用者本人や家族の要望を詳しく聞き、カンファレンスで職員が意見を出し合い、一人ひとりに合った介護計画を作成している。遠方で面会の少ない家族には、記入前の介護計画書を郵送し、要望を書き入れてもらうことで家族の意見を反映させている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の評価を3ヶ月に1回し状態変化や状況に応じ、ご家族、本人、スタッフの要望に応じカンファレンスを行い新たな計画を作成している。  (外部評価) 基本的には3か月に1度の見直しであるが、状態変化が見られた場合はその都度見直している。一定期間、介護計画のモニタリングを行い、月に1度評価することで、利用者全員の介護計画を全ての職員が把握できたため、現在は、担当者2名が3か月に1度、介護計画の遂行状況、効果を評価し、見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 健康チェック表を作り、食事量、水分量、排泄など身体的状況をスタッフ全員が確認できるようにしている。日々の暮らしの様子や本人の言葉などを記録している。また、病院に受診した場合は、色分けして記録し計画の見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 医療分野についての機能性を、十分に活かし柔軟に対応している。  (外部評価) 医療連携体制により、24時間体制で健康管理をすることができるため、利用者や家族の安心に繋がっている。また、通院介助や利用者個々の要望に応じ、買い物や物療等の外出支援を柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 入居者と地域とのさまざまな接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。また、大洲消防署とは、防火訓練を通じて災害時の対応について指導を受けている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居者の状況や希望の応じて、いきつけの理、美容室に行ったり、訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 成年後見制度が必要と思われる入居者に、地域総括支援センターと協力して利用できるように支援している。また、以前利用したい入居者もおられた。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的な受診、緊急時の対応は医師である理事長に連絡し指示を頂いたり、往診に来て頂いたりしている。  (外部評価) 契約時に、本人や家族の希望で運営者でもある医師に主治医を変更する人もいるが、馴染みの主治医を継続させている人もおり、その場合も通院介助の支援をしている。健康面で心配事があるときは運営者に連絡し、適切な指示を得ることができる。週1回の往診、年1回の健康診断で利用者の健康に十分配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要時いつでも相談できる。診断、治療も随時受けもらえる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 医療連携の特色を活かし、日々刻々と報告、連絡、相談し、健康管理、医療活用ともに十分出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、ご家族とも情報交換しながら、回復状況など速やかな退院支援に結びつけている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末に対応指針を定め、ご家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとにご家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い支援につなげている。  (外部評価) 契約時に終末期について説明しており、病気や重度化等の場合には本人・家族・職員・医師等による話し合いを持ち、方針を共有している。また、状態変化のたびに家族の意向を確認している。現在までに4名の看取り経験があり、終末期には勤務体制を調整し、増員することで他の利用者へも配慮している。	※	ターミナルケアについて話し合う際に、ホームの対応指針を口頭で確認するだけでなく、本人・家族・職員・医師等が方針を共有する上で文書は重要となるため、「看取りの指針」として文書化することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合い入居者が安心して週末を過ごしていけるよう取り組んでいる。急変した場合は、すぐに対応して頂ける医療機関とも密に連携を図り対応している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 別の居所でも、これまでの暮らしの継続性が損われないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意点について情報提供し、きめ細かな連携を心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシー確保の為、言葉かけ、対応には、十分配慮している。また、個人情報の取り扱いには細心の注意を払い漏洩のないようにしている。  (外部評価) 居室の入室時も、利用者の承諾を得てから行っている。排泄の誘導には特に注意し、他者に聞こえないよう耳元で小さな声で行っている。ケアの際には必ず、「～していいですか」と利用者の意向を確かめてからケアをするよう心がけている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 自己決定できる人は、本人にして頂き、出来ない人は自己決定できるように支援している。押付けでなく本人が選択できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩等、一人ひとりの状態を思いに配慮しながら柔軟に対応している。  (外部評価) 本人の自己決定を大切にしており、食事の時間や起床の時間等、本人の気持ちに沿ったケアを心がけ、柔軟に対応している。レクリエーションの場面でも、拒否の方に無理強いすることはせず、好きなことをしてもらえよう利用者の意向を汲み取るための会話を多くしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の生活習慣に合わせた支援をしている。また、行事、外出時化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。理、美容は本人の希望を聞いて行っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理、盛り付け、片付け等入居者と共に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気作りを大切にしている。  (外部評価) 車いすの利用者が、お盆に洗った食器を載せて運んでいる場面では、安定感のある持ち方をしており、日頃から慣れている様子がうかがえた。自主的に食器洗いをする方、台拭きをする方がおり、職員も感謝の気持ちを伝えている。また、それぞれのペースで食事を取っている姿が見られた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 職員は、一人ひとりの嗜好物を理解しており入居者の様子や時間を見ながら、それらを楽しめるように支援している。また、おやつはなるべく手作りのおやつを作って、楽しみが持てるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、尿意のない入居者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。入居者の状態に合わせて布パンツに尿取りパット併用、紙パンツに尿取りパット併用するなど使い分けている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望に沿いながら、身体の状態に合わせた入浴の機会を提供できている。入居者のペースにあわせて入浴介助を行っている。  (外部評価) 基本的に1日おきの入浴としているが、希望があれば毎日入浴できる体制である。B棟にはリフト浴の設備があり、重度化した場合に対応できる。入浴拒否のある方へは、声かけの際、トイレに誘い、入った扉とは別の扉で繋がっている脱衣所の方へ移動し、自然な流れの中で入浴できるよう工夫している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動、様子や、心身状態に合わせて、自室で自由に休息して眠れるようにしている。また、寝つけない時には、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをして安眠策を取っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 入居者一人ひとりに、声かけて出来ること出来るようなことの場面作りをして食器洗い、洗濯物たたみ、掃除などしてもらい、感謝の言葉を伝えるようにしている。  (外部評価) 利用者からの要望もあり、生き生き過ごせるよう一人ひとりに役割を持ってもらっている。調査当日も食器洗い・台拭き・洗濯物たたみ等を利用者が自主的に行っていた。また、手芸の得意な方にほころびを縫ってもらったり、ボタン付けをしてもらったりしている。家族参加の行事も3か月に1回あり、楽しみにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) その人のレベルに応じ、本人にお金を所持してもらっている。買い物に出かけた際、お金を持つ機会を持ってもらい買い物をしてもらう支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 本人の気分、希望に応じて、季節感を感じてもらよう散歩、ドライブ、近くの喫茶店、お弁当をもって戸外に出かけている。  (外部評価) 暖かいときは車いすの方も自分でこいだり、他の利用者に押しってもらったりして散歩に出かけている。ホーム前の道は交通量が少ないため、安全にゆったり散歩することができる。また、買い物の希望がある時なども、日常的に外出支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年3回(春、夏、秋)マイクロバスを借りて、お弁当を持って戸外に出かける機会を作っている。ご家族の協力を得ている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族、知人からの手紙が届けば読んだり、必要であれば代筆したりしている。毎年賀状を出す支援をしている。また、本人の希望に応じて、電話のやり取りが出来るよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間の制限なく、気軽に訪問できる雰囲気作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ベット柵は、最小限必要な所のみ使用している。また、玄関は、自由に出入りできるように開放している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者が、外出しそうな様子を察知したら止めるのではなくさりげなく声をかけたり一緒についていくなど安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。日中は、玄関は常に開放している。  (外部評価) 日中、玄関は扉を開放し、自由に外に出かけられるようにしている。スタッフルームから玄関を見通すことができ、出入りで数回チャイムが鳴るため、職員は外出を察知でき、一緒に出かけるなど安全に配慮した対応をしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフ間で協力し合い、入居者と同じ場所で記録をしながらさりげなく全員の状況を把握できるよう努めている。夜間は、巡視時に物音に注意するなど様子を把握できるようにしている。	※	夜間1人夜勤が多く以前に比べて2人夜勤も増えてきたが、完全に2人夜勤になるように理事長、管理者で話し合ってもらおう。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物を使う際には、スタッフが見守ることによって安全を確認している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) その人の状態に合わせた見守り対応している。事故、ひやりはっと報告を記録し、申し送り、ミーティング時に状況を分析し、解決策を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変、事故発生時に備え研修を受講したり、医師、看護師から指導を受けている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回入居者と共に避難訓練を行っている。訓練をした後スタッフと消防署の方と避難方法など話し合っている。  (外部評価) 年2回避難訓練を利用者と一緒に行っている。これまで2ユニットで夜勤者1名の場合を想定して訓練してきたが、月の3分の1は2人夜勤になっているため、今年は夜勤者2名を想定し、役割分担を明確にしてスムーズな連携が取れるよう努めている。水害時の避難経験があり、地震も含めマニュアルを作成し、災害に備えている。	※	ホームでは、今後、回覧板による地域への広報活動を通し、地域の人々の協力を得られるよう働きかけ、地域の防災訓練に参加し、ホームの避難訓練にも地域の方に参加してもらうよう取り組んでいくことを検討しているため、今後の取り組みに期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりの状態のリスクに対して、ご家族と情報交換し理解を得るように話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックを行い、状態の変化をスタッフが把握し、変化や異常時には、すぐに医師に報告している。急変に対しても対応できる体制がある。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎月担当医師から情報提供を頂き、薬の内容確認し変更があった場合は連絡ノートでスタッフ同士が確認できるようにしている。内服後の状態観察している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い食材や乳製品を採り入れている。散歩、ラジオ体操などで身体を動かす機会を設け自然排便できるようにしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じて口腔ケアを行っている。また、自立している人への声かけもしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事や水分摂取状況を毎日健康チェック表に記入している。管理栄養士に献立作成してもらい、状態に応じた支援をしている。  (外部評価) 管理栄養士に利用者の好みを伝え、栄養に配慮し、且つ利用者の喜ぶ献立を立ててもらっている。食事量、水分量は、毎日記録し、水分量については、1日1リットルを確保するよう、早朝にも飲み物を飲む時間を取っている。また、ターミナルの方は別の用紙に詳しい記録をとり、受診時に活かせるようきめ細かい配慮がある。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 医師、保健所からの感染予防、対応の指導があり、また、マニュアル作成し感染予防に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日、まな板、布巾など消毒し清潔を心がけている。調理前の手洗いも徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関は、開放し安心して出入りできるようにしている。また、玄関の周りには、季節感がある花や野菜を植えている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間に、季節の花を飾り、食事の支度を音、臭いがする五感、季節感を採り入れて居心地良く過ごせるよう工夫をしている。  (外部評価) 木のぬくもりの感じられる空間になっており、天窓から自然光が入り、明るい雰囲気である。夏場は天窓を開け、涼をとることもできる。一段高い畳の間で休んだり、洗濯物を畳んだり、広い窓から外の景色を眺めたりしている。また、季節感のある飾りを出したり、観葉植物を多数置き、居心地良い空間に設えている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファやテレビを置いて、畳の所にこたつを置き自由に過ごせるように工夫している		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使い慣れた布団、日用品、写真など部屋に持ち込まれ安心して居心地よく過ごせる場所になっている。  (外部評価) 転落時の安全性を考慮した低めのベッドが配置されており、安心感がある。仏壇に庭で咲いている桜の花を添えたり、干支の置物を置いたり、長年使ってきた三面鏡を持ち込んだり、家族の写真を飾るなどして、それぞれ自分らしい居室になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝窓を開け空気の入替えを行い、トイレは、換気扇と消臭剤で悪臭が出ないようにしている。暑さ、寒さに対し入居者に聞き冷やしすぎ、温めすぎないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホーム内では、歩行しやすいように手すり、入居者の状態に合わせた上下可動な洗面台を設置、安全な生活が送れるようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりのわかる力を活かして見守り支援に心がけ、必要以上の援助はしないように心がけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ホームの周りに畑、花畑があり、季節ごとに植え替え収穫したり、テラスで日向ぼっこをしたりして楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 0 ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入居者の思い願いは、時の流れや体調の変化とともに日々変化しており、また、職員との信頼関係が出来ているかによっても、内容の深さも変わってくる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	散歩と一緒にいき、昔の話を聞いたり、昔の歌を歌ったりしてのんびり過ごされている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフと買い物に行ったり、散歩をしたりして一人ひとりのペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	お好きな事、入浴、散歩などを支援したり、普段行けないドライブ、喫茶店、地域の夏祭りなどの催しの時の表情は生き生きとした表情が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりの体調に配慮しながら、戸外の行きたい所へ出かけるように支援している。ご家族と連携し気軽に外出して頂いている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	医療連携先の浦岡医院から、毎週水曜日に医師、看護師が来られている。状況急変に対しても即座に対応できる体制をとっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	可能な限り柔軟な支援を心がけているが、症状や健康状態により希望に添えない場合がある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	入所時、面会時、電話をかけた時などに、ご家族と話し合う機会を作っている。信頼関係が取れるよう心がけている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	ホームの周りの畑で野菜収穫をしていると、近所の方が通りがかりに話されたり、隣の畑から野菜を頂いたりしている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域開催の行事に参加を行い、三味線、ギター、歌、踊り等の演奏披露に来て頂くようになり、理解者や応援者が徐々に増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者、ご家族、職員同士の関係も良好であり、それぞれの目的を持ち生き生きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全ての要望に応えられてはいるが、入居者が落ち着いて過ごされて笑顔を見ておおむね満足して頂いていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族への報、連、相は、極力頻繁に行い、請求時に広報、写真を同封して喜んでもらっていると思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・医療連携先である浦岡医院より、毎週水曜日に医師、看護師に来て頂き、入居者の健康状態を把握していただいている。また、健康状態に不安を抱える入居者も安心して過ごして頂ける環境を提供している。
- ・毎日の献立を、栄養バランスを考えて管理栄養士さんが提供している。
- ・日々の生活の中で「自己決定」して頂くことを大切にしている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム やすらぎの家

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)  
氏名 井上 博子

評価完了日 平成 20 年 1 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 入居者の今までの生活を大切に、その人らしく暮らせるよう明示している。  (外部評価) 開設時からの「うるおいのある生活を共に」という理念を、実践に活かせるよう職員で話し合い、新たにケア理念として、「のんびりゆったりやすらげる」「一人一人の個性を大切に」という具体化した理念を作っている。また、運営規程に事業の目的として、地域住民との交流を掲げ、利用者の住みなれた地域での生活を支えていくことを謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念に基づき、支援のあり方について日々話し合っている。  (外部評価) 書初めで書道の得意な利用者にケア理念を書いてもらい、掲示している。具体化された理念は職員も意識し易くなり、利用者がゆとりのある生活を送ることができるように声かけを工夫している。また、利用者との会話を大切にし、一人ひとりに合ったペースで過ごすことができるよう支援している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を2ヶ月に1回行い、理解して頂くよう取り組んでいる。 家族には、入所時、面会時に説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩時など近所の方に会った時など、必ず声をかけている。近所の方が野菜を持って来たりして下さる。	※	回覧板によって、グループホームのことを理解して頂き、行事等に気軽に参加して頂くようにしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の健康診断や敬老会、奉仕活動など参加し、交流を深めている。  (外部評価) 自治会に加入し、地域行事には利用者も参加している。幼稚園や小学校の子どもと年間5～6回交流し、秋にはホームの畑で芋掘りをし、春には幼稚園のひな祭り会に呼ばれるなど、交流がある。また、中学生や地域のボランティアを受け入れたり、公民館活動をしている地域の方が、大正琴等の演奏で来訪したりしている。	※	ホームではさらに理解を得られるよう、近隣住民への回覧板による広報活動を推進し、公民館に5周年記念誌を置くなどを計画している。この取り組みによって地域とのつきあいがより深まり、ホームの理解者がさらに増えていくことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を通して、認知症に関して相談を受け付けることができるようにしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己、外部評価の意義を理解し、指摘項目は改善するよう取り組んでいる。  (外部評価) 管理者、職員は評価の意義を十分理解し、利用者の生活をよりよくするよう、改善計画を立てるなどして評価を活かしている。前回評価を受けて、事故報告書を分析し、再発防止策を話し合い、転倒の防止等に役立っている。また、消毒液の設置やマスクの着用を実施して感染症の予防に努めている。	※	今回は管理者とホーム長が職員の意見を聞きながら自己評価をまとめているが、今後は自己評価項目をミーティング等で取り上げ、一つ一つの項目のねらいを全職員が理解した上で、一人ひとりが自己のケアを振り返る機会となることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、入居者の状況や今取り組んでいることを報告したり話し合いができています。議事録は、職員、入居者が閲覧でき、委員、家族の方には郵送している。  (外部評価) ホームの現況や行事について詳しく報告し、委員から意見や要望を出してもらっている。市職員からは、地震を想定しての避難訓練の実施をしてはどうかといった具体的な意見も出ており、活発な意見交換がされている。今まではホーム側が議題を設定していたが、今後は委員からも議題を出してもらおうよう運営方法を変えていく方針である。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 大洲市が開催する会議や研修に参加し、質の向上に努めている。  (外部評価) 市が主催する連絡会で情報交換し、研修を受けている。地域包括支援センターにも相談に乗ってもらっている。3年前から、2か月に1回介護相談員を受け入れ、利用者との会話から、利用者の要望を伝えてもらい、レクリエーションの時間を設けたり、一人ひとりが活躍できる役割を担ってもらおうなど、運営に活かしている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、学んだことを月1回のミーティング等で発表し職員の理解を深めるようにしている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修に参加し、学んだことをミーティングで話し合い虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明は十分に行い、理解、納得して頂くよう努めている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者から話しやすい雰囲気作りを大切にしている。不満、苦情があれば、苦情箱、苦情窓口申し出て頂き、その都度対応できるようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時、または体調に変化等あれば、その都度電話で報告している。請求時に写真同封している。  (外部評価) 家族への報告、連絡、相談は重要であると捉え、頻繁に行っている。毎月の利用料請求時には、暮らしぶりについて手紙を添え、行事の時の写真も同封している。健康状態の変化や受診、検査結果については電話で連絡し、金銭出納帳は面会時に確認のサインを得ている。また、ホーム便りや運営推進会議の議事録も送付している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議、面会時などに不満等を表せる機会を設け、あれば改善している。  (外部評価) 意見箱を設置し、苦情相談窓口を明確にしているが、それよりも直接口頭で意見や要望を伝えてもらうことが多い。家族との信頼関係が築かれ、意見を出し易い雰囲気であることがうかがえる。また、運営推進会議に参加していない家族からの意見を求めるため、毎回議事録を送付している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティング、申し送り時に話し合う機会を作り、良い提案は反映させるようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 施設長、ホーム長が必要時、勤務調整を行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の移動はスムーズに行い、入居者が不安にならないよう配慮している。  (外部評価) 全職員が両ユニット横断したローテーションを組み、支援している。職員の離職を防ぐため、ストレスを溜めないよう配慮し、相談に乗ったり、茶話会風のミーティングを開くなど工夫している。担当者が離職する際は職員間の引継ぎを確実にし、利用者へのダメージに配慮し、自然な形で交代するようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を受ける機会を確保し、研修受講者には、研修内容の報告、説明を行っている。  (外部評価) 職員は向上心があり、研修参加の意欲が高く、順番で年間3～4回外部研修を受講している。管理者は、職員のレベルに応じて研修情報を提供し、職員の育成に尽力している。研修に参加した職員は報告書を作成し、ミーティング時に他の職員に伝達講習している。また、運営者は研修参加費用の面で受講し易いよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他グループホームの運営推進会議に出席し、行事の際に交流を持ったり、相互評価事業に参加し質の向上に努めている。  (外部評価) 個人的に交流のある2ホームと運営推進会議に参加し合い、情報交換している。また、ホームの行事にも招き合い、交流を深めている。グループホーム連絡協議会主催の相互評価事業にも参加し、他ホームの取り組みを参考にする良い機会を得ている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員がストレスをためないよう月1回のミーティングにコーヒープレイクを取り入れたり、年に数回は、親睦会を行っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修に参加し、レベルアップを目指し、前向きに仕事が出来よう努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人が不安に思っていることなど打ち明けやすい環境作り、話す機会を持つように努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 不安に思われていることを受容し、応えられるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い、本人の希望、ご家族の希望を大切にし、課題を明らかにし支援している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 色々な話を聴きながら、他入居者の中にも徐々に馴染めるよう、場の雰囲気づくりなど大切にしている。  (外部評価) 入居前に利用者の担当ケアマネジャーから相談を受け、一緒に自宅を訪問し、利用者や家族から話を聞いています。また、利用者と家族がホームを見学し、雰囲気に馴染んでもらっている。入居後も会話を大切に、徐々に馴染めるよう配慮すると共に、玄関の扉を開放し、外に出ることができるという安心感を持ってもらえるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 入居者の生活歴、性格など把握し、本人から学んだりし支えあう関係が築けるよう努めている。  (外部評価) 利用者からの「ありがとう」という感謝の言葉と笑顔に支えられている。また、介護時に職員が利用者の思いを受け止めながら、笑顔で接すると、利用者もにこやかない表情をされるといふ職員の話から、利用者一人ひとりを理解した上での暖かい支えあいがうかがえる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 運営推進会議、行事などを通じ、入居者を共に支えられるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族に行事などへの参加を呼びかけ、より良い関係が継続できるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が、面会に来やすい雰囲気づくりを心がけている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員が、入居者同士の関係を把握し、関わりあえるよう対応している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去された後も必要な場合は、手紙や電話などで交流を持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々の関わりの中で、ふと口にしたことなどを大切に、思いや意向の把握に努めている。  (外部評価) 利用者の思いが込められた言動が見られた時には個別の記録に書きとめ、ミーティング等で報告し、全職員が共有できるようにしている。言葉が少なくなった利用者の場合も行動により察知し、1対1になれるよう居室に移動し、落ち着いた雰囲気の中で傾聴することで把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、ご家族より様々な話を聴き、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ミーティングや申し送り時に、個々の情報を集め、職員間で共有できるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人とご家族の意向をお聴きし、ミーティングやカンファレンスを実施し意見交換を行い、誰が見ても理解できるケアプランを作成している。 <hr/> (外部評価) センター方式をホームの実情に合う形で取り入れたアセスメントシートを基に、利用者本人や家族の要望を詳しく聞き、カンファレンスで職員が意見を出し合い、一人ひとりに合った介護計画を作成している。遠方で面会の少ない家族には、記入前の介護計画書を郵送し、要望を書き入れてもらうことで家族の意見を反映させている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 各担当者が、入居者の変化に応じ、見直しを行うとともに、本人、家族、必要な関係者と話し合いを行い新たなケアプランを作成している。 <hr/> (外部評価) 基本的には3か月に1度の見直しであるが、状態変化が見られた場合はその都度見直している。一定期間、介護計画のモニタリングを行い、月に1度評価することで、利用者全員の介護計画を全ての職員が把握できたため、現在は、担当者2名が3か月に1度、介護計画の遂行状況、効果を評価し、見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ミーティングや申し送り時に、職員間で情報を共有し、必要な時は計画の見直しも行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 医療法人ということもあり、必要時には吸引の使用方法的勉強会を行ったり柔軟に対応している。  (外部評価) 医療連携体制により、24時間体制で健康管理をすることができるため、利用者や家族の安心に繋がっている。また、通院介助や利用者個々の要望に応じ、買い物や物療等の外出支援を柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 学校や地域ボランティアと協力しながら入居者との交流を持っている。消防署とは、避難訓練を通じて災害時の対応について指導を受けている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人やご家族からの要望はないが、要望があれば対応を行う。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 連絡会等での交流があるので、必要時には連携し協働していく。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、ご家族の希望を大切にし、定期的な受診をしている。医師である理事長が週に1回往診に来られている。  (外部評価) 契約時に、本人や家族の希望で運営者でもある医師に主治医を変更する人もいるが、馴染みの主治医を継続させている人もおり、その場合も通院介助の支援をしている。健康面で心配事があるときは運営者に連絡し、適切な指示を得ることができる。週1回の往診、年1回の健康診断で利用者の健康に十分配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要時にいつでも相談でき、検査、治療も受けてもらえる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 医療連携の特色を活かし、日々報告、連絡、相談し、日常の健康管理、医療活用十分にできている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 連携病院、他病院とも、情報交換を密にし連携している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 主治医、本人、家族と話し合い、職員全員で方針を共有している。  (外部評価) 契約時に終末期について説明しており、病気や重度化等の場合には本人・家族・職員・医師等による話し合いを持ち、方針を共有している。また、状態変化のたびに家族の意向を確認している。現在までに4名の看取り経験があり、終末期には勤務体制を調整し、増員することで他の利用者へも配慮している。	※	ターミナルケアについて話し合う際に、ホームの対応指針を口頭で確認するだけでなく、本人・家族・職員・医師等が方針を共有する上で文書は重要となるため、「看取りの指針」として文書化することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) できること、できないことを見極め、医療機関、家族とともにチームとしての支援に取り組んでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 転居時は、情報提供書を送り情報交換を十分に行い、ダメージ防止に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシー確保のため、言葉かけ、対応に配慮し、個人情報の取り扱いには、細心の注意を払っている。  (外部評価) 居室の入室時も、利用者の承諾を得てから行っている。排泄の誘導には特に注意し、他者に聞こえないよう耳元で小さな声で行っている。ケアの際には必ず、「～していいですか」と利用者の意向を確かめてからケアをするよう心がけている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 自己決定できる方には、本人にして頂き、出来ない方には自己決定ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせ、その人らしい暮らしが継続できるように支援している。  (外部評価) 本人の自己決定を大切にしており、食事の時間や起床の時間等、本人の気持ちに沿ったケアを心がけ、柔軟に対応している。レクリエーションの場面でも、拒否の方に無理強いすることはせず、好きなことをしてもらえよう利用者の意向を汲み取るための会話を多くしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 着替えなど、出来るだけ本人に選んで頂き、理、美容は、本人の希望を聞いていくように努めている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事、おやつが楽しい時間になるよう、入居者、職員と一緒に準備や片付けなど行っている。  (外部評価) 車いすの利用者が、お盆に洗った食器を載せて運んでいる場面では、安定感のある持ち方をしており、日頃から慣れている様子がうかがえた。自主的に食器洗いをする方、台拭きをする方がおり、職員も感謝の気持ちを伝えている。また、それぞれのペースで食事を取っている姿が見られた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人が望む飲み物、おやつなどが日常的に楽しめるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 気持ちよい排泄が出来るよう排泄パターンを把握し、必要であれば声かけをしたりし支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿いながら、身体の状態に合わせた入浴の機会を提供している。  (外部評価) 基本的に1日おきの入浴としているが、希望があれば毎日入浴できる体制である。B棟にはリフト浴の設備があり、重度化した場合に対応できる。入浴拒否のある方へは、声かけの際、トイレに誘い、入った扉とは別の扉で繋がっている脱衣所の方へ移動し、自然な流れの中で入浴できるよう工夫している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 本人のその時々状況、心身状態に合わせ、休息したり安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 玄関を開放し、いつでも散歩や気晴らしが出来るようにしている。裁縫が得意な方には、道具に提供をしたり、生活歴を活かした役割が持てるよう支援している。  (外部評価) 利用者からの要望もあり、生き生き過ごせるよう一人ひとりに役割を持ってもらっている。調査当日も食器洗い・台拭き・洗濯物たたみ等を利用者が自主的にしていた。また、手芸の得意な方にほころびを縫ってもらったり、ボタン付けをしてもらったりしている。家族参加の行事も3か月に1回あり、楽しみにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人のレベルに応じお金を所持してもらっている。買い物に出かけた際に、お金を持つ機会を持ち使えるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日など外で体操やボール遊びをしたり、散歩に誘ったりし希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。  (外部評価) 暖かいときは車いすの方も自分でこいだり、他の利用者に押しってもらったりして散歩に出かけている。ホーム前の道は交通量が少ないため、安全にゆったり散歩することができる。また、買い物の希望がある時なども、日常的に外出支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 本人の希望を聞き、買い物や喫茶店に行くなど出かける機会を作っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族や、大切な人から手紙が届けば読んだり、必要であれば代筆したりしている。また、本人自らが電話をしたりやり取りが出来るよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間の制限なく、面会に来られた方と入居者が関わりをもてるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関を開放し、いつでも外出できるという開放感を持って頂くようにし、見守りをしている。ベットの柵も最小限必要な所にのみ使用している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関を開放し、玄関に出られた方にはさりげなく付き添い、散歩等同行するようにしている。  (外部評価) 日中、玄関は扉を開放し、自由に外に出かけられるようにしている。スタッフルームから玄関を見通すことができ、出入りで数回チャイムが鳴るため、職員は外出を察知でき、一緒に出かけるなど安全に配慮した対応をしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフ間で協力し、所在確認をするようにしている。夜間は、巡視時に物音に注意するなど、様子を把握するようにしている。	※	夜間、以前に比べ2人夜勤は増えているが、完全に2人夜勤になるよう理事長と話しあっている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物を使用するときは、スタッフが見守り安全を確認している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) その人の状態に合わせた対応をケアプランに詳しく入れたり、事故、ひやりはっと報告書に記入し、申し送りや話し合いの時に状況分析、解決策を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 連絡網を整備し、急変や事故発生時に備え、研修受講したり医師、看護師からの指導を受けている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、スタッフ間、消防署の方と避難方法など話し合っている。  (外部評価) 年2回避難訓練を利用者と一緒に行っている。これまで2ユニットで夜勤者1名の場合を想定して訓練してきたが、月の3分の1は2人夜勤になっているため、今年は夜勤者2名を想定し、役割分担を明確にしてスムーズな連携が取れるよう努めている。水害時の避難経験があり、地震も含めマニュアルを作成し、災害に備えている。	※	今後地域で行う防災訓練の参加や、ホーム内での訓練に地域の方も参加して頂くことなども検討したい。  ホームでは、今後、回覧板による地域への広報活動を通し、地域の人々の協力を得られるよう働きかけ、地域の防災訓練に参加し、ホームの避難訓練にも地域の方に参加してもらうよう取り組んでいくことを検討しているため、今後の取り組みに期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりに起こり得るリスクについて、面会時などに家族と情報交換し理解を得るよう話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝のバイタルチェックを行い、状態に変化をスタッフが把握し、異常時はすぐに医師に報告している。急変に対しても対応できる体制がある。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の内容が分かるよう毎月医師からの情報提供を頂き、変更があった場合申し送りノートで、スタッフ同士が確認できるようにしている。内服後の状態観察もしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつの際に、食物繊維を摂取できるようにしたり、散歩や体操などで体を動かすなど便秘予防に取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じ口腔ケアを行っている。自立している人への声かけも行い、清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの水分量、食事量を確保できるよう管理栄養士が献立作成し、状態に応じた支援を行っている。  (外部評価) 管理栄養士に利用者の好みを伝え、栄養に配慮し、且つ利用者の喜ぶ献立を立ててもらっている。食事量、水分量は、毎日記録し、水分量については、1日1リットルを確保するよう、早朝にも飲み物を飲む時間を取っている。また、ターミナルの方は別の用紙に詳しい記録をとり、受診時に活かせるようきめ細かい配慮がある。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 医師や保健所からの感染予防、対応の指導があり、マニュアルも作成し感染予防に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日、調理用具等の消毒を行い清潔を保てるよう衛生管理に努めている。調理前の手洗いも徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 安心して出入りできるよう、玄関周りには季節感のある花を植え、玄関も開放している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 天窓により自然な光が入るようにし、不快な音、匂いなどが出ないように配慮している。  (外部評価) 木のぬくもりの感じられる空間になっており、天窓から自然光が入り、明るい雰囲気である。夏場は天窓を開け、涼をとることもできる。一段高い畳の間で休んだり、洗濯物を畳んだり、広い窓から外の景色を眺めたりしている。また、季節感のある飾りを出したり、観葉植物を多数置き、居心地良い空間に設えている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや、畳の間のコタツにて快適な時間を過ごせるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人や家族と相談し、使い慣れたものを持ち込んで頂き、安心して過ごして頂くよう自室の環境作りを支援している。  (外部評価) 転落時の安全性を考慮した低めのベッドが配置されており、安心感がある。仏壇に庭で咲いている桜の花を添えたり、干支の置物を置いたり、長年使ってきた三面鏡を持ち込んだり、家族の写真を飾るなどして、それぞれ自分らしい居室になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎日換気を行い、外気温と大きな差がないようにし、入居者の状態に応じて配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの体形にあわせることができる可動式の洗面台や、手すりなどを利用し安全な生活ができるようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりのわかる力を把握し、見守り支援を心がけている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 散歩や交流の場として、花を植えたり畑には野菜を作ったりし活かしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入居者の思いや願いは、入居されてからの期間や体調の変化などにより変わり、職員との信頼関係が出来ているかによっても内容が変わってくる。言葉だけでなく行動によっても掴めるよう努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食後やおやつ時など、一緒にお茶を飲みながら昔の話を聞いたり、昔の歌を歌ったりし、ゆったりと過ごす時間を大切にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食後は、自室や畳の間のこたつ等で昼寝をしたり、気分転換に外にお花を見に行ったり散歩をしたりされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	普段行けない場所へのドライブや入浴や散歩などの支援により生き生きとした笑顔や姿が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	健康状態にもよるが、戸外のいきたいところへ出かけるよう支援している。ご家族とも連携し気軽に外出して頂いている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	医療連携先の浦岡医院より、毎週水曜日に医師、看護師が来られる。急変の場合でも対応できる体制をとっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	可能な限り、状況や要望に応じた柔軟な支援を心がけ安心して暮らして頂くようにしている。(健康状態により添えない場合あり。)
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	入居時、面会時、電話をかけた時などに話し合う機会を作っている。信頼関係が密に取れるよう心がけている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	ホーム周りの散歩をしていると近所の方が来られ、お話をして行かれたりしている。野菜とか収穫したら近所の方が持ってきてくださる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方達が、大正琴や三味線、ギターなどの演奏に来られるようになり、理解者や応援者が徐々に増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者、ご家族、職員同士の関係も良好で、笑顔で生き生きと向上心を持ち働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ゆったりと過ごされている笑顔を見て、おおむねご満足頂いていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族への連絡、報告、相談は、度々行い封書送付の際には、写真を同封したりし、とても喜んで頂いていると思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・医療連携先である浦岡医院より、毎週水曜日に医師（当グループホーム理事長）看護師に来て頂き、入居者の健康状態を把握して頂いている。また、医師、看護師が毎週来て頂くことより、健康面で不安を抱えている方も安心して過ごして頂く環境にある。
- ・入居者の方の食べたい物、また匂も物を取り入れ、管理栄養士が立てた献立を提供している。
- ・日々の生活の中で「自己決定」して頂くことを大切にしている。